

# 令和6年度 1年A組 学級経営方針

担任 二宮 智徳

1 生徒数 男子 17名 女子 17名 計34名

## 2 学級目標

「1-A ONE for ALL ALL for ONE 勉強&部活を全力で ~仲間と共に~」  
学級通信のタイトルを生徒が取り入れた。

集団とは、それぞれの性格も得手不得手も好き嫌いも様々な人同士の集まりである。だからこそ、それぞれの個性を大切に、尊重し合う集団に。また、係や委員、担当になった生徒は、みんなのために一生懸命になれる集団を構築したい。ひいては個々を尊重し合い、頑張っている友達を応援できる集団の育成を図っていき

たい。

## 3 生徒の様子

- ・元気がよく授業中の発言も多い。
- ・頑張ろうとする意識の高い生徒が多い。
- ・学習に苦手意識が強く、提出物の期限が間に合わない生徒が少なくない。
- ・教師の話聞く時間と作業をする時間、友達を対話する時間のメリハリが苦手な生徒が少なくない。

## 4 学級経営の重点事項

- (1) 明るい雰囲気、居心地のよい学級空間の構築を図る。
- (2) 自分だけではなく、互いに応援し合える集団の育成を図る。
- (3) やるべきこと、提出物など、期限や約束などを守れるよう指導する。

## 5 学級経営の重点事項を達成するための具体的な方策

- (1) 掲示物は美しく掲示し、教室前面には最小限の情報のみにし、集中できる教室環境をつくる。
- (2) 係や当番の生徒のみが仕事をするのではなく、手が空けば互いに手伝えるよう声かけする。
- (3) 毎日黒板に一言を書き、生徒自身の啓発を図る。
- (4) 学級通信を利用して、担任の思いや生徒の様子を多く記載し、やさしい心を育む。さらに掲示板を効果的に利用して提出期限を守れるよう指導する。

# 令和6年度 1年B組 学級経営方針

担任 相澤 春花

1 生徒数 男子 18名 女子 16名 計34名

2 学級目標 「積極的に挑戦し、個性ある仲間と協力する1-B」

自分たちで成長していくためにはどうすれば良いか生徒が考え、「積極的」「挑戦」という言葉を取り入れた。

また、個人では解決できない問題でも、周囲と協力すれば解決していくことができると考え、「仲間」「協力」という言葉を取り入れた。自分にできないことであっても、学級内にいる、だれかの得意なことであることもあり、それぞれの得意不得意を生かし、個性を尊重し支え合うことができる集団の育成を図っていく。

3 生徒の様子

- ・落ち着きがあり、周囲の様子を見てどのような行動を取ることが望ましいか考えることができる。
- ・自分から役割を探し、頑張ろうとする意欲が高い生徒が多い。
- ・授業の時間などを意識し、メリハリのある行動をとることができる。

4 学級経営の重点事項

- (1) 互いの得意不得意を理解し、補い合い、協力することのできる集団の育成を図る。
- (2) 自分の意見を持ち、また相手の意見に耳を傾け、考えを共有することができる集団の育成を図る。
- (3) 明るく前向きで、居心地の良い学級空間の構築を図る。

5 学級経営の重点事項を達成するための具体的な方策

- (1) 自分の得意なことでは困っている人を助け、苦手なことでは助けてほしいと自分で意思表示をするように、声掛けを行う。
- (2) 学活や総合などで意見交換の場を多く取り入れ、簡潔に伝える方法と他者の話を聞く姿勢について繰り返し指導を行う。
- (3) どのように伝えれば、自分の意見が正しく相手に届くか、言葉の使い方や相手へ対する姿勢を身に付けていくことができるよう、指導を行う。
- (4) 他者を否定するような声掛けがあった場合の指導を徹底し、それぞれの良い点に目を向けさせる。

# 令和6年度 1年C組 学級経営方針

担任 屋代 昌寛

**1 生徒数**                    男子 17名    女子 17名    計34名

**2 学級目標**                「やさC、かがやかC、自ら行動Cクラス」

井草中学校の教育目標は「自主自律・創造性 豊かな心 健やかな身体」である。これを基に、第1学年では学年目標を「何事にも主体性をもって行動する集団の育成」と設定した。生徒は、同じ学級の一人一人を認め合い、各自が積極的に行動し、輝かしい集団となることを意識して、この目標を考えた。また、学級目標として各人が覚えやすい言い回しも念頭に置いて、学級目標を上記のものに設定した。

**3 生徒の様子**

本クラスの生徒は、素直である反面周囲の状況を鑑みず、発言行動してしまう場面が目立つ。そのため、授業での発言も活発であるが、相手の意見を聞いたり、話し合い活動を通して互いの意見や考えを深めたりという所までは至らない。時間の意識に関しても、自分たちで時計を見て動くことができている生徒とそうでない生徒は半々である。生徒間の関係性としては、比較的分け隔てなく、様々な生徒と交流する風土はあるので、相互に認め合う雰囲気は今後さらに高まるのではないかと期待できる。

**4 学級経営の重点事項**

- (1) 時間を守って行動すること。
- (2) 自分の意見をもち、周囲と共有すること。
- (3) 自分と相手の相互に認め合う雰囲気づくりをすること。

**5 学級経営の重点事項を達成するための具体的な方策**

- (1) 絶えず時間と優先順位を意識して行動できるように声掛け等を行う。
- (2) 学級内で話し合いの場を設け、互いの意見を聞き合う機会をつくる。
- (3) 委員会活動や係等、特別活動で活躍した生徒の行動を積極的に取り上げて、学級に周知する。

# 令和6年度 1年D組 学級経営方針

担任 久保田 比佐美

**1 生徒数**            男子 18名    女子 17名    計 35名

**2 学級目標**    みんな笑顔で感謝の気持ちを忘れずに協力して行動する井草中1年D組！

嫌な思いをする人がいないよう、みんなが笑顔で居心地のよい環境をつくる。お互いに得意な分野で助け合い、何かをしてもらったら「ありがとう」と感謝の気持ちを伝え合える関係を築く。生徒一人ひとりが生き生きと過ごせるクラスにする。

**3 生徒の様子**

年度当初から活気があり、男女の仲もよいクラスである。困っている人に寄り添う姿も見られる一方で、相手の気持ちを考えない言動をする生徒もいる。お互いの長所を活かし、助け合うことでより良い集団を育成したい。

授業と休み時間の気持ちや行動の切り替えができない生徒が少なからずいる。声かけをする生徒もいるので、お互いが意識して行動できるクラスにする。

**4 学級経営の重点事項**

- (1) お互いの個性を認め、助け合える集団の育成を図る。
- (2) 場に適した言葉遣い、行動ができるように指導する。
- (3) やるべきこと、提出物など、期限や約束などを守ることができるように指導する。

**5 学級経営の重点事項を達成するための具体的な方策**

- (1) 生徒一人ひとり、違うバックグラウンドをもっているため、自分と違う考え方の人を排除するのではなく、お互いに苦手とすることを助け合える雰囲気づくりができるよう指導する。
- (2) 相応しくない言動が見られたときはその都度伝え、改善できるよう指導する。
- (3) 全体に周知するとともに、個別に繰り返し伝えて守ることができるように指導する。

# 令和6年度 1年E組 学級経営方針

担任 岩崎 裕真

**1 生徒数**                    男子 17名    女子 17名    計34名

**2 学級目標**                    「積極的に行動し、互いに認め合うクラス」

井草中学校の教育目標は「自主自律 創造性 豊かな心 健やかな身体」である。これを基に、第1学年では学年目標を「何事にも主体性をもって行動する集団の育成」と設定した。生徒は、3年後を見据え「社会に出るときに必要なことは何か。」を考え、時間を守って行動することや自分の意見を持ち、それを共有することなどを挙げた。これを短い言葉で「積極的に行動」とまとめ、さらに、「積極的に行動」するためには、「互いをみとめ合う」雰囲気大切であると考え、学級目標を上記のものに設定した。

**3 生徒の様子**

本クラスの生徒は、物事に取り組む際、疑問に思ったことがあれば自ら発信できる生徒が多い。また、道徳の授業等を行うと、自らの経験を基に意見を持ち、それを周囲と共有できる生徒もいる。このことから、自分の意見を持ち、発信する基本はできていると判断している。一方で、相手の意見を否定することはないものの、個の意見にこだわり、意見に広がりが見られない生徒も多い。

時間を守る意識については、目的が明確になればクラス一丸となって声を掛け合う雰囲気がある。一方で、新入生特有である、何を優先すればよいかわからない状況が出てくると、時間を守ることの優先順位が低くなる傾向にある。

**4 学級経営の重点事項**

- (1) 時間を守って行動すること。
- (2) 自分の意見を持ち、周囲と共有すること。
- (3) 互いに認め合う雰囲気づくりをすること。

**5 学級経営の重点事項を達成するための具体的な方策**

- (1) 行動の目的を明確にし、掲示物等も活用しながら井草中学校の生活様式に慣れるようにする。
- (2) 学級内で話し合いの場を設け、互いの意見を聞き合う機会をつくる。
- (3) 道徳の授業等を活用し、他者の意見について「なるほど」と思える部分を探し、自分の意見と比較する機会を設ける。